

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101458		
法人名	医療法人 街道会		
事業所名	グループホームあした葉		
所在地 (電話番号)	松江市雑賀町299 (電話) 0852-21-8700		

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年3月12日

## 【情報提供票より】(21年 1月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	13.8 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 228,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,260 円			

### (4) 利用者の概要( 1月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	74 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林医院、森江歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地するこのホームは、「利用者本位の支援」「地域への貢献」を重要課題として法人を設立した経緯があり、ホームをはじめ、法人全体で、積極的に地域密着への取り組みを行っている。あわせて、利用者を第一に考えたケアが提供されており、訪問時も、それぞれが思い思いに暮らしている姿を確認できたとともに、利用者、職員の笑顔が多く見られた。管理者、運営者、職員ともに、常に質の向上に向けた支援を念頭に置き従事しており、研修会の参加や、勉強会の開催などを積極的に行うとともに、運営者、管理者に対する、職員の意見箱を設置するなど、よりチームケアを充実させる取り組みも行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善を求められた項目については改善に向けての積極的な対応がなされており、加えて、指摘がなかった項目に関しても、自己評価や外部評価を通して、より利用者本位のサービス提供、より良い質の確保を目指した取り組みがなされている。ただ、運営推進会議の開催等については、今後も積極的に取り組み、改善されることが望まれる。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者をはじめとし、職員全員が評価を実施する意義を理解しており、これも含め、事業所の質をより良くしていこうとする積極的な姿勢が見られる。またこれまでの外部評価の改善を求められた項目に対しては、早急に改善策を講ずるなど、ホームの更なる質の向上を念頭に置き、日々のケアを行っている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政関係、住民、入居者及び家族等をメンバーとし、開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようとしている。ただ、概ね2か月に1回の開催には至っておらず、行政関係も含め、積極的に開催されることが望まれる。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月利用者個々の担当者から、活動の写真を付け生活状況を記した(利用者個別の)ホーム便りが作成され渡されている。加えて、家族の来訪時等を利用してケア方法の変更、日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告が行われている。家族の面会時や家族会などで、話す時間をできる限り設け、家族からできる限り意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人として地域密着という点は重要視しており、老人会や新年会の参加など、地域との連携を図り、関わりを深めるよう取り組まれている。あわせて、同地域にあるグループホームとも連携がなされ、利用者同士の交流をはじめ、非常時の協力など、積極的に取り組んでいる。また、さらに地域との連携を密にするよう、法人全体として、またホームとしても積極的に活動している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の下で・・・」など、地域密着を重要視した法人理念の基、ホーム独自でも、「地域に根ざした取り組みを・・・」等、地域との連携に積極的に取り組むという理念が設定されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時の唱和やホーム内の掲示、スタッフミーティングの際に再確認するなど、共有化に向けた取り組みが行われているとともに、理念の具現化に向けたケア提供体制が構築されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加盟しており、地域で開催される老人会や新年会といったイベントへは、利用者とともに積極的に参加している。また、ボランティアの受け入れも積極的に行うとともに、同地域のグループホームと連携するなど、地域とのつきあいは積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行うなど、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘であった事項に関しては、改善に向けての取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者及び家族、地域代表や行政関係者などをメンバーとし開催している。会議では、経過報告や問題解決に向けた協議など、積極的な議論がなされている。ただ、概ね2か月に1回といった定期的な開催には至っておらず、行政も含め、改善されることが望まれる。	○	会議を単なる報告や情報交換の場にとどめることなく、会議メンバーと協働して、地域において全ての住民が安心して暮らしていける“地域福祉ネットワーク”の構築が望まれる。行政も含め、地域が一丸となった、更なる積極的な取り組みが期待される。

島根県 グループホームあした葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者との協議する機会を多く持つなど、市町村との連携についても図られている。その結果、気軽に相談できる関係が構築され、ホームとしても市役所を活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者個々の担当者から、活動の写真を付け生活状況を記した(利用者個別の)ホーム便りが作成され渡されている。加えて、家族の来訪時等を利用してケア方法の変更、日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会などで、話す時間をできる限り設け、また、利用者個々に担当を決め意見や要望が出しやすい体制を作り、家族からできる限り意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	8月から、運営体制が変更されているものの、法人として、ホームの特性を十分に理解しており、体制変更前に従事し始め、馴染みの関係を作り出すなど、利用者への影響を最小限に抑えようと取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には、原則全職員が参加するようにしており、外部研修へも積極的に参加するようにしている。職員会議での復命(文書報告)研修も実施されており、職員個々のスキルアップを目指した取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡協議会に加入し、研修等へ積極的に参加するとともに、サービスの質の向上を目指している。また、グループホーム部会を通して職員の交流も行われるなど、ホームの質の向上に向けた積極的な取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントにより利用者個々の価値観やライフスタイル等の個人因子は把握され、家族とも相談し、利用者とも会話しながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者が安心してホームでの生活に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	“利用者主体”を基本とし、職員は利用者の意思や思い等伝えたいことを受容する態度で接するよう心掛けており、利用者の活動に対しては、感謝や御礼、ねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努め、利用者本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者本位”に主眼を置き、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での利用者の行動や言動を観察することで、意向を把握しそれに添うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は、本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に担当職員が原案を作成し、職員全員で話し合い作成している。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは、毎日行われている。また、期間に応じた介護計画の見直しはもちろん、利用者の状態の変化に合わせて随時見直しが行われている。毎月開催される職員ミーティングでも、各利用者の状況が確認され、これを見直しに活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医にも受診ができ、常時連絡が取れるように関係を築くなどの支援を行っている。 加えて、利用者本人及び家族に確認・同意を得た上で、利用する協力医療機関を確保しており、家族と共に連携を密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについては、本人、家族、主治医等と十分に協議を行い、それぞれの方針を決定し支援している。 また、職員への周知も図られるなど、関係者全体でのチームケアとして対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が意識統一を図り、利用者の尊厳に十分に配慮し、誇りの尊重やプライバシーの確保に視点を置いたケア提供が心掛けられている。衣服の乱れや汚れがあればそっとカバーするような対応がなされ、排泄介助の際もプライバシーが守られ、居室に入る時は必ずノックや声掛けがなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の能力や、意向の把握がなされ、その能力を活かし役割を見出すなど、それぞれに対応した支援がなされている。併せて、できるだけ本人の意に沿う支援を行うよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等、利用者とともにっており、それぞれの役割を見出しているとともに、職員も同じテーブルに着き、同じメニューの食事をとっている。和やかな雰囲気作りにも取り組まれ、調査時も、笑顔の多い食事風景が確認できた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や、1日おきなどそれぞれの希望に合わせて実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、個々の能力に応じ得意なことやできることを活かす場を作り、ホーム内での役割を果たし、生活に楽しみと張り合いが持てるよう支援を行っている。また、昔からの地域行事に参加したりするなど、外出の支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向・希望を踏まえ近所への散歩をはじめ、買い物や理美容院の利用、季節に応じた外出行事も実施されており、外出の機会が多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など利用者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルも作成され、避難経路等職員全体で再確認するなど、取り組まれているとともに、定期的に訓練も行われている。また、同地域にあるグループホームとの連携など、地域への協力依頼もなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は必要に応じてチェックし把握している。また、利用者それぞれの咀嚼能力に合わせ食事形態も柔軟に対応されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、ベンチや畳敷きのスペース(コーナー)も設置されており、廊下や玄関先にもベンチが置かれ、藤製の衝立を配置するなど、出来る限りセミファブリックなスペースを確保しようとする取組みがなされている。ベンチに座っての、気の合った利用者同士で、或は職員と談笑する光景も見受けられた		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は持ち込まれており、生活用品を使いやすいように設置はしてあるものの、馴染みの品を含めて生活備品が少なく、淋しい感じを受けた。家庭的な雰囲気有し、個々の利用者一人ひとりに合った落ち着いた十分な居室環境作りまでには至っていない。	○	居室は利用者がホームで生活していく上でとても重要な空間である。様々な事情が考えられるが、家族等へ働きかけ、馴染みの品や使用していた物、家庭家具や生活用品を居室に置くことで、利用者が落ち着き、「ここが自分の居場所」と感じる、温かい家庭的な雰囲気を持った居室作りに向けての取組みが望まれる。